



日本と台湾の女子サッカーについて

～台湾で活躍している日本人選手のインタビューを中心に～

体育学部 体育学科 競技スポーツ専攻 4年 山本有菜

目次

1. はじめに
2. 活動内容
3. 施設見学・自己紹介
4. PWFC LaLiga ユース練習
5. 文化交流・観光
6. ゼネラルマネージャーのインタビュー
7. 日本人選手のインタビュー
8. インタビューの結果
9. 研修を通して学んだこと、おわりに

1. はじめに

この度は、ふるさと会海外研修生に選出していただき、誠にありがとうございました。また、研修の準備の際にご協力いただきました先生方にも心より感謝を申し上げます。私は2023年8月21日から8月31日まで10日間台湾高雄市の高雄陽信銀行女子足球队カオシュンヤンシン(サッカーチーム)で研修させていただきました。研修では、サッカーチームの運営の仕事を見学することをはじめ、文化交流及び日本人選手のインタビューを実施し、スポーツ場面における文化や考え方の違いを肌で感じました。私は小学校から7年間やっていたサッカーの経験を基に将来はサッカーに携わる仕事に就きたいと考えております。この研修を通して、自分自身が経験したことのない日本と台湾の女子サッカーの違いについて知識を深めることで将来の仕事に活かしたいと考えました。

2. 活動内容

高雄陽信銀行女子足球队は2022年10月より親会社が新しくなり、現在の新しいクラブハウスが設立されました。公式ホームグラウンドでは練習と試合が行われています。親会社では、PWFCというサッカークラブも運営しており、ユースチームの育成事業も展開しています。今回の研修では、高雄陽信銀行女子足球队のリーグが休暇中であったためチームの練習に参加することはできませんでしたが、運営側の仕事とユースチームの練習の手伝いをする事ができました。現地に到着して、1日目は高雄陽信銀行女子足球队の監督と研修日程や内容について打ち合わせをして、クラブハウスまでのルートや周りの施設について案内していただきました。2日目は、台湾の国民体育大会が開催されていたので女子、男子部のサッカー試合を観戦し、3日目から10日目まで1週間クラブハウスでインタビューを行ったりお仕事を手伝ったりしました。クラブハウスまでの移動手段は主に地下鉄、レンタサイクルでした。

日付	内容
8月21日(月)	台湾到着 高雄陽信銀行女子足球队監督と打ち合わせ
8月22日(火)	台湾国民体育大会 サッカー試合観戦
8月23日(水)~25日(金)	PWFCクラブハウス訪問・施設見学、自己紹介 高雄陽信銀行女子足球队日本人選手インタビュー
8月26日(土)	PWFC LaLiga ユース練習 コーチとして参加、午後 高雄市観光
8月27日(日)	観光日 台南市
8月28日(月)~30日(水)	高雄大学 vs. 日本工学院八王子専門学校 試合観戦
8月31日(木)	帰国

3. 施設見学・自己紹介

クラブハウスに着いてゼネラルマネージャー（GM）に挨拶をした後に、研修の打ち合わせをしました。その後は、施設の見学をしました。2022年10月に新設された建物で台湾のサッカーチームの中でもトップクラスの快適な施設ということでした。2日目は、クラブハウスのオーナーやスタッフに自己紹介をして質疑応答の時間を設けました。



4. PWFC LaLiga ユース練習 コーチとして参加

LaLiga はスペインリーグのグローバルユース育成の一環としてPWFCと協業し、2022年からサッカースクールを運営しています。この日は、コーチとして練習を手伝うこととなりました。ユースチームは高雄市U-12として今年の8月に日本のユース大会に出場した経験もあり、国内ではレベルが高いということでした。この日の練習は、ディフェンスの動き方を中心に行いました。



5. 文化交流・観光



研修初日はスタッフと食事をし、現地の料理や食文化などを教えていただきました。



26日(土)の午後、27日(日)は休みだったので高雄市内と郊外を観光しました。



高雄の人気文化スポット「^{ボア}駁二芸術特区」



世界で最も人気のある美術館 2 番目に選ばれたことのある美術館「Chimei museum」



「台南市」

27日(日)は一日台南市内を観光しました。台北が首都になるまで長い間首都だった台南市は日本が統治していた時の名残がたくさん残っていました。街並みは日本と似ているようで似ていないところが面白かったです。

6. ゼネラルマネージャーのインタビュー

ゼネラルマネージャーから台湾のサッカー環境についてと現在のチームの運営計画になどについて以下の内容通りお話をいただきました。

◎台湾のサッカーの現状

GM 台湾におけるスポーツの価値は、非常に低いので商業的利益を得ることが難しいです。その中でもまだ人気のある野球やバスケットボールなどは商業化が進んでいて集客もありますが、サッカーの場合は、男女問わずほとんどの試合が無料です。また、代表チームの試合もこの最近まで無料でした。

◎台湾の女子サッカーについて

GM 現在、台湾のトップリーグは2014年に開幕したセミプロリーグムーランリーグ（台湾木蘭女子足球聯賽）があります。加盟しているチームは6チームで、社会人、大学生、高校生で構成されています。女子サッカーの人口は、中学生まで全部合わせると120人程度います。ほとんどのチームは学生まで参加をしないとリーグに参加できないのが現状であり、プロリーグではないので、社会人選手は教員や講師などの本業を持ちながら選手活動を並行しています。また、地域性が強いので出身地から他の地域に異動することはさほどないとのことですが、その理由として、それぞれ本業を持っているので異動が簡単に行かないことも一つの要因であります。

台湾では、早くから女子サッカーが盛んで「ムーラン」の異名を持つ女子代表は1970年代後半から1980年代にかけて何度もアジアを制覇し、スター選手の周台英は1989年発足して「なでしこリーグ」の前身であるLリーグで3年間プレーをしていたこともあります。*1

女子のFIFAランキングが始まった2003年には日本14位、台湾22位でさほど差はありませんでしたが、2023年最新ランキングによりますと日本8位、台湾38位で大きな差が開いていることを確認することができます。*2

◎高雄陽信銀行女子足球队チームについて

GM 高雄陽信銀行女子足球队は、ムーランリーグに加盟しているチームで、以前はNPO法人より運営されていましたが、2022年10月から現在の親会社と新たに契約し、事業を拡大しています。2023年シーズンは日本人3人を含む22人の選手が所属しており、現在リーグ3位にランクしています。

◎チーム運営に当たって（収益など）

GM 昨シーズンまでは入場料が無料でしたが、今シーズンから大人のみ入場料200円（約900円）をもらっています。1試合にあたり2~300人ほど観客が訪れますが、そのうち3分の1は子どもなのでチケットで得られる収入は少ないです。現在、チームの大きな収入源はスポンサー会社と政府の補助金です。リーグに参加するためには600万円（約2800万円）*の予算が必要となり半分は政府、残りの半分はスポンサー会社の資金で賄われています。将来は、プロ化を目指していますのでプロ化のために必要な予算（1500万円から2000万円ほど）を確保するために今後スポンサーをもっと集めて事業を拡大させていく予定です。

*2023年11月現在

7. 日本人選手のインタビュー



みのり
若林 美里 MF

前 ジェフユナイテッド市原 所属



みづか
佐藤 瑞夏 MF

前 ジェフユナイテッド市原 所属



なお
塚本 奈緒 DF

前 ちふれ AS エルフェン埼玉 所属

今回のインタビューに協力していただいたのは、日本の WE リーグ*³やなでしこリーグで活躍した経験のある日本人選手3人です。インタビューは、協力者の許可を得て録音し、その後、文字化しました。インタビューは、以下の質問項目に基づき、半構造化面接法で行われました。

1. 台湾の女子サッカーに挑戦してみて感じたこと
2. 日本と台湾の観客の違い
3. 台湾での女子サッカーの関心度
4. 日本と台湾の待遇面での違い(活動時間や給与、様々な補助など)
5. 今後は台湾でサッカーを続けたいのか、それとも日本に戻りたいのか
6. 文化や考え方などの違うと感じたこと
7. 台湾の良いと思ったところ
8. 暑い台湾をどのように過ごし方
9. 台湾のおすすめ観光スポットや食べ物
10. 今シーズンの目標

インタビューに当たっては、一人ひとりが気楽にお話していただけるような雰囲気を作るために1人ずつ時間をとって実施しました。

*³ WE リーグ - 2021 年 9 月に開幕した日本初の女子プロサッカーリーグ

8. インタビューの結果

本節では、上記の質問項目を中心に、インタビューの結果を報告します。以下、報告すべき内容をまとめ、次いで、具体的な発言を例示しました。

8.1 台湾の女子サッカーに挑戦してみて感じたこと

台湾の女子サッカーに挑戦してみて感じていることについて、台湾全体としてのサッカーについてと現在のチームの環境 2 つの点が挙げられました。

若林 まず、やはり日本のリーグでずっとやってきたので日本と比較することになりました。台湾は技術だけではなく環境の部分や指導者の質など色んなところでチームとしてだけではなくサッカー協会を見た時にも日本と台湾の差は何十年くらいだと思っくらい開いていることを第一に強く感じました。しかし、台湾の方々もこれから進歩していきたいと思っている人は多くて、その知識とか技術を向上させるために外国からやコーチを呼ぶことでレベルアップを図っています。実際、私が所属しているチームもこの何年間でも年々上がっているなどは感じました。ただ、上がっているなど見える部分と本当に変わらないと思う部分両方あるので難しさを感じました。しかし、私も日本で長くやってきたので日本の考え方になるところがあるので、日本でよかった部分は台湾でも活かせたらいいなと思うし、台湾の良さも大事にしつつサッカー先進国の良いものをもっと取り入れたらいいなと思いました。そういった意味でも、台湾は伸び代がたくさんある国であると感じました。

佐藤 台湾の中でもこのチームの環境はすごくよくて日本のトップリーグのチームと比べても良い方だと考えられます。

塚本 台湾の選手たちは運動量が少ないことと、日本では、自分が思い描くところにチームメイトがいてくれるのであんまり困らなかったけど、台湾では、いて欲しいところにいるとかどういう意図でそこにいるのかわからない時があります。だから新鮮でした。今までは自分自身がプレーを作るのは苦手だったので日本でプレーするときは味方が動いてくれるからその意図に合わせるのが楽だったけど、ここでは自分で意図を持ってプレーで表現しなければいけないのでできなかったことができるようになって成長を感じています。

8.2 日本と台湾の観客の違い

観客の違いについては、観客数と観客の特徴の 2 つの観点で挙げられました。観客数は平均的にどの国も少ないが、日本の方が多傾向であることです。また、日本では基本的にサポーターがいて応援歌もあることが基本的であるが、台湾にはサポーターやファンクラブがないという違いがあります。

若林 日本の女子サッカーの観客数も多くはないですが、平均的な人数は台湾の方が少ないです。しかし、このチームの 2023 年シーズン開幕戦の時に訪れた観客数が同じ日に開催された WE リーグのある試合より観客が集まったことはありました。なので、一回戦で生まれる日本と台湾の観客の差はあまりないと考えられます。そして、数字の部分だけではなく観客がサッカーを観戦している時の沸く瞬間が日本と違います。例えば、地味だけど良いディフェンスをした時よりは面白いプレーをした時や変なミスをした時に盛り上がったりするので、「あ、そうなのだ」と思うことが時々あります。そして、日本では少人数でもサポーターがいて応援歌があることが一般的ですが、台湾のチームではサポーターがいない為、応援歌もないけど、どのチームにも共通の応援法はあります。しかし、台湾の野球では最近そういう文化ができたと聞いたので後々サッカーでもそういった取り組みが生まれてきそうな雰囲気は感じています。そういった面でもこれからだなと感じます。

佐藤 人数は日本の方が多いです。台湾は、サポーターやファンクラブが特にないけれど、このチームはホーム試合の時に太鼓を叩いてくれるなど熱狂的に応援してくれるのでどのチームよりホーム感があります。

塚本 台湾は、サポーターという概念がまだないが、応援が熱いです。ホーム試合では、運営のスタッフたちが太鼓を叩いたり旗を持って走ってくれたりして観客みんなが盛り上がって応援できるように場づくりをしてくれています。日本の WE リーグでは、サポーターがいて応援をしてくれることが一般的で、それ以外の観客は試合を観戦する程度だったのでみんな盛り上がって応援してくれる感じはあんまりないのでこういった応援をしてくれる中で試合することができるのが楽しいです。

8.3 台湾での女子サッカーの関心度

3 名の選手に共通するのは、台湾ではサッカー人口が少なくその点が関心度の低さにも繋がると考えられるという点がありました。その理由として、台湾ではサッカーだけではなくスポーツが全般的に栄えてないということが考えられます。

若林 台湾自体が大きい国ではなくてその分人口も少ないのでサッカーをやっている人はとても少ないです。台湾国内の一般の人からすればスポーツ自体に興味を持っている人は非常に少ないと感じます。

佐藤 一人ひとりのレベルは日本と比べたら低いのは確かです。細かく分けてみるとプレーの質やメンタル面、モチベーションなど様々な要素がピッチ外でも保たれるようにサッカー協会やチームの仕組みが改善できるかと思いました。以前、活躍していたなでしこリーグでも仕事をしながらプレーをした経験があり、そこをよりサッカーにかけられる時間を増やしたら一人ひとりの意識とエネルギーの使い方が変わるのではないかと考えられます。現在、日本のWEリーグでもトップリーグを作ったとて観客がまだまだ足りなくて経営的にも難しいのが現状です。だから、台湾も関心がまだまだだけそれを上げるには選手のレベルアップが必要だと感じます。

塚本 今、キッズスクールの練習の手伝いをしていますが、日本の子供たちと比べるとやっている人数も少なくレベルも低いです。そういう観点でみると台湾国内でのスポーツをしている人、さらにサッカーをしている人口はとても少ないので、それを考えると関心度もその分少ないのではないかと考えられます。

8.4 日本と台湾の待遇面での違い(活動時間や給与、様々な補助など)

3名の選手に共通するのは、日本のなでしこリーグと同じような待遇であり、チームの練習や活動については日本とは異なる点があるので工夫が必要だということです。

若林 待遇面では、日本のなでしこリーグと同じような感じだと思います。しかし台湾では、社会人選手たちが本業を持っていて副業として活動を続けているためフルタイムで勤務した後に練習に参加しています。また、勤務時間や勤務先、居住地などがバラバラなのでチーム揃って練習できるのは週に1~2回ぐらいしかありません。選手によっては練習に来られずに週末の試合だけ参戦する場合もあるのが現状です。

佐藤 プロとしての待遇はそれぞれだと考えられますが、練習時間は日本のチームにいた時と違って、夜7時からの練習で遅くなっています。しかし、その分午前中に自分がしたいトレーニングをする時間ができて自分にとってはプラスになっています。

塚本 日本と比べて台湾は、練習の回数が少なく、試合がない時でも2日休みがあります。日本では2日休みはほとんどないです。また、練習時間に関して台湾は年中暑いことと、チームメートたちが昼間にフルタイムでお仕事をしているので終わってからの練習になります。日本のチームでもなでしこリーグの選手たちも昼間に仕事をして練習に参加しますが、一般的にチームのスポンサー会社で働いているので練習時間の確保のために勤務時間を調整してくれるので、フルタイムで働くことはさほどないです。そして、走る練習やサーキットトレーニングなど体力練習がないので本当に疲れたと感じる練習はあまりないで

す。待遇面でも、日本ではチームによりますが、住宅補助が出たり夕食が出たりするところがあります。台湾でもこのチームに限っての話になりますが、そういう面も含めて自分自身が経験してきた中でこのチームでの待遇は日本に比べて良いと感じます。

8.5 今後は台湾でサッカーを続けたいのか、それとも日本に戻りたいのか

3名の選手に共通するのは、スポーツとしての活動は単年契約なのでこの先のことより、まず与えられた時間の中で自分自身のできることを考えているという点でした。そして、元々台湾に限らず海外でもプレーをしてみたい希望があったのでどこでプレーするかは特にこだわりはないということです。

若林 長年、サッカーを続けてきた中でセカンドキャリアや逆算の思考などの教育も受けたことがあり、何度も向き合ったことはあるが、今は深く考えていません。その理由として、現在海外でプレーをしていることもあって1日1日状況も心境も変わります。異国の地で暮らすということは必ず難しいものが伴うので、だからこそ一年台湾でやると決めて、ここでの一年の目標をしっかり成し遂げたいと考えていますが、来年は分らないです。シーズンが終わった時の気持ちや他の話をいただくとかそういくことによって決めたいです。だから特に、必ず日本に戻りたい、必ず台湾ではない他の国でやってみたい逆に必ず台湾でやりたいみたいなはありません。ただ、今自分にはこの環境があってこのクラブで4シーズン携わっていて自分が加入してからクラブの成績が上がってきた事実もあるので、このクラブの悲願であるアジア大会まで出てこのチームをサポートしてくれた方々に恩返ししたいです。そうすることで自分がここに来た意味になるのではないかと考えられます。

佐藤 元々から海外でもプレーをしてみたいという夢があって、台湾に来たのもその一つであります。しかし、単年契約になるので、自分自身が続けたいとしてもできないのが現実であります。ということで、私自身も何年後の計画は立てておらず、とりあえずこの一年間頑張ろうと思っています。

塚本 特に日本に戻りたいとか台湾に残りたいという気持ちより、元々海外でプレーしたいと思っていたので、20代のうちには海外どこのチームからでもオファーが来たらとりあえず挑戦してみたい気持ちが大きいです。

8.6 文化や考え方などの違いを感じたこと

若林 台湾に来るまでは、台湾は親日が多くて日本が統治していた時代もあったので文化的に似ているところが多いイメージでしたが、実際に住んでみたら知れば知るほど違うところがあるなと感じています。生活面で面白かったことは、ここはゴミ収集車が来たら捨てに行くシステムがあって決まっている場所にその時間になったら皆ゴミを捨てるために集まってきて待っている間に会話をしています。それを見て、地域間の距離が近いと感じました。だが、しっかりしたマンションではゴミ置き場があって、今はゴミ置き場があるマンションに住んでいます。また、考え方が違うところもあります。例えば、日本では何らかのプロジェクトやイベントを企画をするときには最悪の事態を想定することが多いので対策を考えてからプロジェクトを開始することが一般的です。しかし、台湾では予め想定することはなく問題が起きた時にどうしよう

と考える思考です。一例として、昨年、クラブハウスの近くにサッカー施設が作られたときに、誰が運営するか決まっておらずとりあえずオープンして何ヶ月か経った後に管理者が決まったということもありました。

佐藤 サッカーで言えば、日本はよく試合中に厳しい言葉が飛び交います。例えば「やる気ないなら帰れよ」など。しかし、それはあくまでも信頼関係ができた上での求め合いです。チームとしての決まりでもあります。しかし、台湾では名前を出して怒ったりすることはなくて全体に遠回りに言うことが普通なのでどうしても響き方が甘いと感じます。そこは、文化の違いであると考えられるし、厳しく言ったとしてその人の気持ちがネガティブになっても難しいので、その部分は良い方法がないか現在模索しています。プレー中には、言い合った方がお互い高め合うこともできるので、お互い言うことで相手のしたいことも分かるし、発信していかないと迷惑になることもあるのでそこはどう言うふうにしていくか考えています。一緒に練習できる時間が少ないので一回一回の質を上げたいです。

塚本 道に野良犬がいることやコンビニやお店の中にもリード無しの犬と一緒に入ってくるのがよくあります。最初はびっくりしたけど、しつけもちゃんとされていてかわいいのですごくいいと思いました。

8.7 台湾の良いと思ったところ

若林 自分自身の生活環境の要素もあるけど、晴れた日が多い気候や人、治安そして一般社会のルールなどの部分を見てみても住みやすさを感じます。日本は、人の目を気にしなければいけない厳しいところがあります。しかし、台湾はそういったキチキチしたところはさほどなく政府に対する信頼度が高いので国の方針に素早く従うところがあります。コロナでマスクをつけてくださいとなったらすぐつけて、外してもよくなったら即反応して外して、咳をする人に対する過剰反応などはないです。人のおおらかさなのか人を気にしない特徴があるのか分からないけどそういったところから居心地がいいと感じるし、それが住みやすさにも繋がると思います。なので、一言でまとめると好きだなと思います。生きていると感じます。

佐藤 お店でもどこに行ってもみんな優しいです。そして、サッカーの場面で言うと切り替えが早いことです。日本人選手は、負けたら悔しくて泣くこともあります。悪いとは思いません。ただ、そこからどうするかまで早ければ早いほどいいと思っています。しかし、台湾の選手たちがそこまでいけているかどうかは難しいところですが切り替えは早いです。日本人選手は考えすぎてミーティングが終わって帰るバスでもシーンとなっているけどそういう光景はないです。なので、重みを上げることでレベルはもちろん練習の強度が上がることになりそれが試合の勝利につながると考えられます。

塚本 何か嫌なことがあっても直接名前を出して言わないことです。例えば、試合中で日本だったらできてない時にはっきり言われることが普通で時にはきつく言われたりもします。一方、台湾ではそれはなく優しいと思うけど時にははっきり言わないと伝わらないところがあるので良し悪しだと思います。

8.8 暑い台湾をどのように過ごし方

若林 高雄は熱帯気候であり年中気温が高いです。基本的に外は暑いけど室内はクーラーで涼しいので、特に暑さに対する対策はないです。日本では、暑くてもスポーツ選手なのでなるべく冷房を控えていましたが、台湾ではお昼間と夜の気温があまり変わらないことと、24時間冷房が稼働しているので冷房をつける生活になりました。

佐藤 特に何かしていることはなく、元々暑いのが好きなので汗をかけるぐらい走ったり練習したりしてその後プールに入って涼んだりしています。

塚本 日本の真夏とそこまで変わらないし、ここでの練習は夜なので暑さで辛いとかはあんまりないです。

8.9 台湾のおすすめグルメ、スポット

3名の選手に共通したことは、マンゴーやパイナップルなど果物が美味しいという点と若林選手より釋迦頭(しゃかとう)という果物が特に美味しいとおすすめしていただきました。また、日本でも人気のタピオカのお茶バージョンや夜市の食べ物もおすすめされました。

若林 まずは、果物はぜひ食べてほしいです。よく知られているパイナップルやマンゴーから日本にないトロピカルフルーツまでなんでも食べてみて欲しいです。釋迦頭という果物が特におすすめです。そして、野菜も日本にはないすごく美味しいものがあるので食べてみて欲しいです。

佐藤 お茶が美味しいので、お茶のタピオカを飲んでみて欲しいです。また、タピオカパールの大きさが2種類あるのでミックスしてナタデココを入れて飲むとさらに美味しいです。

塚本 果物は、なんでも安くて美味しいので是非食べて欲しいです。特にマンゴーが美味しいです。そして、夜市に行ったらよくあるものですが、葱油餅(ねぎもち)が美味しいので食べてみて欲しいです。おすすめのスポットは、高雄のシーズワンと小琉球という島です。

8.10 今シーズンの目標など

3名の選手に共通するのは、チームとしての目標がリーグ優勝であることと、そのために貢献したいということ点です。また、優勝をすると獲得できるアジア大会(AFC)の参加も望んでいることです。

若林 チームとしては、リーグで優勝することが目標です。個人としても優勝するためにチームの力になることが目標です。今シーズンに関しては、得点を取ることやアシストすることは特に考えていなくて、負けないうサッカーをやっていかないと年間を通して勝ち抜くということは難しいと思っています。なので、守備の部分に力を入れてチームメートの得意なところを活かしつつ自分自身で補えるところは補っていきたいです。また、優勝するとアジア大会に出られるという特典をもらえるのでそのためにも頑張りたいです。去年から、新しい施設で練習することができて、環境が整ったことで選手たちのモチベーションも上がってきましたが、それが結果に繋がるとは限らないので優勝をしたいという気持ちでいっぱいです。一方、これだけサッカーに携わって生活できることがそもそもありがたいし、自分が打ち込んでいることに打ち込める環境があることはいいことだと思います。だから、この幸せを噛み締めながら難しいかもしれないけどその結果を追い求めていきたいです。

佐藤 チームとしてはリーグで優勝することを目標としていて、優勝するとアジア大会にいけるチケットをもらえるのでそれも踏まえて頑張りたいです。個人としては、もちろん得点を取ること目標です。得点以上にチームが勝つことを第一に考えてアシスト、サポートしていきたいです。

塚本 まず、チームとしてはリーグ優勝することが目標で、個人的な目標は6ゴール決めること。ポジションはサイドバックだけど、ちゃんと点をとってチームの勝利に貢献したいです。

9. 研修を通して学んだこと、おわりに

競技を続ける中で関わる生活や練習環境はパフォーマンスに大きい影響を与えられと考えられます。今の台湾女子サッカーの環境は、そういった面で競技を長年続けるのには非常に難しいと感じました。その理由として、男子とは違いプロ契約をしている選手は日本人選手3人を除くと1人もおらず社会人として仕事と並行していることが最も大きい影響を与えられと考えられます。練習時間が十分に確保できないことはモチベーションとパフォーマンスの低下につながり、結局は選手としての道が続けるか悩むことになると考えられます。台湾サッカーの今後の発展のためにはサッカー先進国の取り組みを積極的に取り入れて選手の立場をもっと考えた運営方式を展開していくことが必要だと考えられます。インタビューを伺った日本人選手3名については、文化や考え方など競技以外の様々な環境要因がある中でも自分自身ができることを探して、向上心を持って練習やトレーニングなどを主体的に取り組んでいるところを見て、他国でスポーツ選手として活躍することは競技力以上に求められるものがたくさんあると感じました。

大学生活最後の年に、このような貴重な経験をすることができて心から感謝しています。また、この研修のためにお世話になった方々にも感謝しています。卒業後は、国内でも海外でも活躍できる人材になりたいです。ありがとうございました。



世界で2番目に美しい駅に選ばれた高雄地下鉄の「美麗島駅」^{メイリーダオ}

参考文献

*1 ニッポンドットコム HP (<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/g02242/>)

*2 FIFA 公式 HP (https://www.fifa.com/fifa-world-ranking/women?dateId=ranking_20230825)

*3 WE リーグ公式 HP (<https://weleague.jp/about/>)